

鉄道開業150周年 鉄道が登場する千葉の文学3

書名	著者	出版情報	登場する路線・駅・地名	請求記号
成田詣	雪中庵 雀志	教育評論社 2014	常磐線田端～我孫子、成田線我孫子～成田	91568/13/ 「汽車に乗った明治の文人たち 明治の鉄道紀行集」収録
明治34年、開通したばかりの現・成田線（我孫子-成田）経由で、成田山新勝寺に出かけたときの様子。成田鉄道車内では方言で会話する老婆たち。ホームでは駅夫と客の会話などの描写あり。「文芸倶楽部」明治34年9月初出。				
落穂	伊藤 左千夫	岩波書店 1977	東金、求名駅	91868/伊 1/3 「左千夫全集 第3巻」収録
10年ぶりに訪ねた故郷の風景と、人々の変わりように哀愁を感じ、初恋相手を偲ぶ短篇小説。明治44年に開通した東金線。成東の隣の求名駅（ぐみょう）へ降り立つ。「文章世界」大正2年5月号初出。				
青い風	徳田 秋聲	八木書店 1999	那古海岸	91868/ト 1/16 「徳田秋聲全集 第16巻」収録
父子で那古海岸へ旅行した夏のひととき。4時間の汽車旅の中で親子の会話が描かれる。「新潮」昭和4年10月初出。				
波	山本 有三	新潮社 1980	市川駅、銚子駅	9186/14/11 「新潮日本文学 11 山本有三 集」収録
運命に翻弄される男女と、子供への懐疑を伴う愛情など、家族のあり方を考察した長篇小説。尋常夜学校の教師である主人公は、両国から汽車に乗り、市川へ遠足に行く。また、飯岡では女性と霞ヶ浦の汽船に乗るため、汽車で銚子へ向う場面がある。「東京朝日新聞」「大阪朝日新聞」昭和3年7月20日初出。				
犬吠岬紀行	吉田 絃二郎	修道社 1959	稲毛駅、銚子駅	91568/1/2 (中) 「現代紀行文学 全集 第2巻 東 日本篇」収録
両国から銚子へ。稲毛駅では、かつて千葉の歩兵学校で自殺した友人のことが思い出され、銚子では、同じクラスだった詩人の三富朽葉の碑を訪れ追想した。昭和15年3月新潮社「青鳩・生命の微光」収録。				
来訪者	永井 荷風	岩波書店 2019	八幡駅、千葉駅	9136/カ 39/ 「花火・来訪者 他十一篇」収録
自身の贗作騒動に端を発する物語。安房郡××村に住む若き作家は、東京行の汽車内で隣家の未亡人と乗り合わせ会話する。乗車場での乗客たちの様子も描かれる。千葉、稲毛、船橋、八幡の駅名が出てくる。昭和19年4月稿。				
花見川の要塞	稲見 一良	新潮社 1993	軽便鉄道、軍用列車	9136/I53/ 「セント・メ リーのリボン」 収録
花見川沿い取材していたカメラマンは、鉄道兵を名乗る不思議な少年と老婆に出会う。鉄道連隊とトーチカ（鉄筋コンクリート製の簡易陣地）をめぐる幻想的な物語。千葉鉄道第一連隊とC56機関車が活躍。				
砂埃りの道	佐々木 基一	河出書房新社 2013	新千葉駅、京成	91868/サ 2/8 「佐々木基一全 集 8」収録
昭和10年大学受験で千葉の原民喜宅へ滞在した思い出、その後10年間の千葉での生活。そして昭和56年再び訪れた千葉市の街並みの移り変わり、著者の思い出と深いつながりのある京成電車の描写が多々登場。「群像」昭和57年2月初出。				
終りの旅	瀬戸内 晴美	平凡社 1974	館山駅	9136/SE93/
国内外、様々な土地を訪れた紀行文。館山をはじめ訪れた様子あり。国鉄時代。館山駅が終着駅になっている。車窓からの景色と、おかしな「車内アナウンス」、城山の孔雀について語られる。				

真珠のブローチ	木山 捷平	講談社 1979	房総線、館山駅	9186/KI84/K7 (中) 「木山捷平全集 第7巻」収録
知人宅を訪問するため両国駅から房総線で館山へ。短編小説。「鄙びた感じ」だという内房3号列車内では、花札をする男女の様子がある。ラストシーンは、人気のない千葉駅の最終電車ホーム。「小説新潮」昭和41年10月。				
原子炉の蟹	長井 彬	講談社 1981	千葉駅、八日市場駅、銚子駅	9136/N14/
匝瑳郡光町の原子力発電所で発生した連続殺人事件をめぐる社会派ミステリ。第27回江戸川乱歩賞。作中ではたびたび千葉駅と八日市場の駅を行き来する場面がある。特急列車しおさい、銚子駅も登場。				
最長片道切符の旅	宮脇 俊三	角川書店 1998	成田線、東金線、外房線、内房線	2909/21/1 「宮脇俊三鉄道 紀行全集1」収録
鉄道ファンの著者が、タイトル通り、北海道から九州まで片道切符の最も遠回りルートを生出し、実際に乗車する。千葉では、成田線～総武本線～東金線～外房線～内房線。駅員や構内、車外の景色の様子が語られる。お供は小学生の娘さん。				
幽明偶輪歌	天沢 退二郎	思潮社 2001	小湊鉄道	91156/7夕 12/
「現代詩手帖」に1999年3月号から2000年4月号まで連載した詩篇。その中の「半島にて」では、小湊鉄道と思われるローカル電車が登場。あれよあれよというまに、内陸へ入り込んでしまう様子がユーモアたっぷりに描かれている。				
永遠の出口	森 絵都	集英社 2003	千葉駅、八幡宿駅	J913/モエ/ (中)
一人の女の子が挫折しながら成長していく、小学生から高校卒業までを描いた連作短編集。はるばる千葉まで卒業旅行に来た女の子トリオは、帰りにとっさに違う色の電車に乗ってしまう。それが、まさかの快速列車だった。行き着いた先は・・・。				
お弁当ふたつ	高田 郁	双葉社 2013	安房鴨川駅、保田駅、千葉駅	9136/夕 63/ 「ふるさと銀河 線」収録
夫の行動を探るべく、こっそりあとをつける妻の話。外房線内房線の景色、乗客の様子かからさまざまな思いがよぎる。				
出発進行!里山トロッコ列車 小湊鐵道沿線の旅	かこ さとし	偕成社 2016	小湊鉄道	J686/夕/ (中)
絵本作家、児童文学者である著者が描く、「里山トロッコ列車」の絵本。里見～養老溪谷間約10kmを時速20kmで走るトロッコ列車の歴史、各駅の紹介や郷土の魅力をたっぷり紹介していく。				
マイブラザー	草野 たき	ポプラ社 2021		J913/夕/ (中)
鬱屈した気持ちを抱えながら、ひたすら5歳の弟の面倒をみる中学生男子の成長物語。地名は不明だが、千葉の山奥のとある場所に電車で向う。				
犬馬と鎌ヶ谷大仏	乗代 雄介	交通新聞社 2022	鎌ヶ谷大仏駅	91368/249/ 「鉄道小説」収録
「鉄道開業150年交通新聞社鉄道文芸プロジェクト」の一環として製作された短編集に収録。「犬馬と鎌ヶ谷大仏」には、千葉県の新京成電鉄が登場する。小学生時代に発表に使った鎌ヶ谷市の歴史が書かれた模造紙が見つかったのをきっかけに、当時の犬の散歩コースで町歩きをする物語。				

※請求記号欄内に (中)、(西) 表記がある資料は、中央、西部図書館所蔵です。取り寄せができます。